



# ミンガラバー

NPO法人  
日本・ミャンマー  
医療人育成支援協会

〒700-0811  
岡山県岡山市番町2丁目6番7号  
TEL:086-224-0102  
URL:<http://www.mjcp.or.jp>

## サイクロン災害に救済の手を!!

### 念願のクリニック完成

ヤンゴン郊外 下野理事が贈る  
理事長 岡田 茂

本NPOの下野國夫理事（医療法人閑谷会理事長）にとって、長年の希望が現実のものとなった。ミャンマー最大都市のヤンゴン郊外に「ラインタ・ヤ下野クリニック」が完成し、写真①、それを祝うとともに地区保健機構へ贈呈する式が3月18日であった。日本からは下野理事をはじめ岡田ら6名が参加した。

下野理事はかねがね「ミャンマーの貧困地区にクリニックを造りたい」という希望を持っていて、基本的には個人による公共施設の寄付は受け入れないという政府の方針もあり、話し合いは難航。一時、ヤンゴン国際空港近くの施設院の改築ならば可能かもしれない、という話があり、現地視察までしたが、この話も続かなかつた。そして、再び候補地としてあがったのが、現在の場所である。

ヤンゴン市の北西約15キロメートル。ヤンゴン川（エラワジ川の支流の1つ）の下流の低湿地ラインタ・ヤにあり、診療対象人口は約10万人。5キロ圏内にイン・セイン総合病院がある。同じ敷地内にはもともと地区の診療所があり、昼間診療のみで、医師1名、看護師3名、助産師3名、保健師、施設員が従事している。この診療所は老朽化、破損が激しく、改築にも耐えられない状況だった。2006年10月、保健省からこの診療所を取り壊して、同じ所に新たな建築許可が取れそうという連絡を受け、下野理事を含めて協議に入った。

2007年7月のミャンマー医学研究会には、岡田理事長、小出典男副理事長、真治紀之理事、許南浩教授（細胞生物学）など岡山大学から7名が参加し、ミャンマーにおける医学研究の将来像についてのシンポジウムを行った。その時に診療所の具体的なプランが提示され、3月には下野理事がヤンゴンを訪れ、クリニック建築の確実性を認めた。この土地は湿地帯であり、長い雨期があるので、建物が傷みやすいので、屋根材、窓枠材、ドア材などは錆びにくいものを注文したため建築費はやや高めとなった。その後、保健省の許可は比較的スムーズに下りたが、8月以降、物価値上がりに対する反政府デモが頻発したためか、建築許可が下りるのが随分遅れてしまい、最終的には今年3月になった。この間にも本NPOと岡山県とのタイアップによる「岡山発国際貢献事業」として、子宮がん検診のためのがん検診医育成の事業が進められた。

写真②は今年1月、建築許可が下りた直後の現場の様子。鉄筋柱は90センチメートルの深さにあり、床のコンクリートが流し込まれる直前だ。床面積は100平方メートル。部屋割りは中央が待合室で、右側に医師の部屋と看護師の部屋。左側は廊下になっており、その右には診察室と薬局、左手に検査室と記録室（物置）が並ぶ。トイレは廊下から続いて別棟になっている。贈呈式には保健省から地区保健機構長、医学研究局

理事、診療所医師・看護師、日本からの参加者らが出席した。まず建築業者からの建物の引き渡しがあり、次いで下野理事長から地区保健機構長へ贈呈が行われた。写真③。この席で、下野理事は「私は若い頃にシツプドクター（貨物船船医）として、東南アジアの貧しい港町をまわった。私が経済的に独立できるようにしたら、必ずこれらの地域に貢献できるようにしたい」と思っていた。このことを友人に話すと、「下野のほら、がまた始まった」と揶揄されていたが、このクリニックの完成で、これまで話していたことが「ほらでないことを証明できた。自分の長年の夢がかなってとても嬉しい」と挨拶した。待合室にまばゆいばかりに掲げられている真鍮製のプレートには次のように、日本文と英文で記されている。

「この診療所は日本国岡山大学とミャンマー国医学研究局の協力実績に基づいて、下野内科外科院長下野國夫により寄贈されたものである。2008年3月」

※この原稿の締切り直前に、ミャンマーを大型サイクロンが襲来、大惨事を引き起こした。電話やEメールが不通。「ラインタ・ヤ下野クリニック」がどうなっているかわからない。クリニック医師、看護師らの安全と献身的な救助活動を祈るだけである。



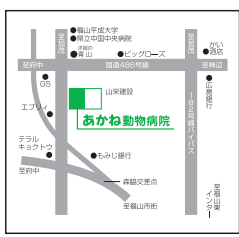
①完成したラインタヤ下野クリニック

②着工直後の様子。風雨に耐えられないよう柱は深く埋められている。

③クリニック目録を贈る。右から地区保健機構長、下野理事、岡田理事長、建築請負主、後之がプレート。

# あかね動物病院

<http://www.sky-net.or.jp/akane/>



Policy | ●心のこもったサービス精神 ●動物達・飼い主様の満足 ●動物にやさしい治療  
●健康診断・ドックの推進

〒720-0002 広島県福山市御幸町下岩成1144-3

TEL (084) 955-0505 FAX (084) 955-0909

■診療時間/午前：10:00～22:00 ※PM2:00～PM4:00は手術時間のため予約のみ受け付けます  
■休診日/毎週月曜日

大型  
駐車場完備  
【30台】

午後10時まで  
診療を  
おこなっております。  
緊急対応  
いたします!

「ペットホテル」「グルーミング」もございまして、ご利用下さい

# 研修を終えて

ム・ム・シュエ

私を指導してくださいました多くの先生方、NPOの皆様、そして日本の皆様へ先ず第一に、ミャンマーを援助下さっておられます皆様の親切なお心に深く感謝致します。私の先生方、NPOの皆様、日本の皆様、現在から将来に至るまでずっと、心も体も健康であり、物質的にも恵まれ平和が続きますように私はいつも仏様に祈っています。私は日本に滞在中は素晴らしい時間を過ごしました。私の先生達、日本人のお友達はすべて優しい心をもっており、あらゆる事で私を助けてくれました。ですから、私は時間を無駄にすることなく一生懸命仕事に励みました。

一昨年、私は岡山大学で子宮がん検診の為に「細胞診」の勉強をしました。研修の後、私はミャンマーに帰ると直ぐに、私の細胞診研

修をミャンマー女性の子宮がん予防に役立てる為の申請をしました。その結果、NPOチームの援助もあり、私たちは「国立子宮がん検診クリニック」を開設することができました。ミャンマーでは子宮がんは女性のがん死亡では一番多いものです。ミャンマー女性に1年に1回の子宮がん検診をすることができれば、近い将来に子宮がんでの死亡は減少すると思います。言い換えれば、皆様の助力により、子宮がんで死亡する女性の命を救うことができるのです。

今年、2008年にはNPO会員の援助により、ミャンマー子宮がんから取り出したがん組織中のパピローマウイルスの遺伝子型を岡山大学アンチエイジング食品科学講座研究室において研究することができました。私の研修期間は2008年2月1日から4月11日まででした。私の研修を担当してくださったのは原野昭雄先生で、NPO会員のお入です。パライニに包埋したミャンマー子宮がん患者組織からDNAを取り出し、そこからRFLP/PCRという方法を使ってウイルス遺伝子型を決定する方法

を学びました。原野先生と私はこの方法で色々試みました。私は10週間の研修期間の間に125例の患者組織から41例にウイルス遺伝子型を決定することができました。このうち、39例は非常に悪性度の高いウイルスの型であり、2例は比較的悪性度の低いウイルスの型でした。私は岡山大学での研修が成功裏に終わりとともに幸せです。私の先生とNPO会員のご助力により、岡山大学から研修終了証明書を頂きました。NPO会員の皆様、そして日本の皆様大変有り難うございました。

私はこの感謝の気持ちをいつも私の心に留めております。そして皆様方から頂いた研修結果を私の力の及ぶ限り展開してゆき、できるだけ多くの人々の命を救いたいと思っております。

ム・ム・シュエ

医学士、医学修士、病理学 国立医学研究局研究員

注：ム・ム・シュエ医師は来日研修は2度目であり、新発足のヤンゴン子宮がん検診の責任者に任命されています。この手紙は4月10日に届いたものです。その後、5月2日から3日にかけてのサイクロン被害により、子宮がん検診クリニックも被害を受けましたが、建物は無事で7月までには再開できるとのことです。

修をミャンマー女性の子宮がん予防に役立てる為の申請をしました。その結果、NPOチームの援助もあり、私たちは「国立子宮がん検診クリニック」を開設することができました。ミャンマーでは子宮がんは女性のがん死亡では一番多いものです。ミャンマー女性に1年に1回の子宮がん検診をすることができれば、近い将来に子宮がんでの死亡は減少すると思います。言い換えれば、皆様の助力により、子宮がんで死亡する女性の命を救うことができるのです。

今年、2008年にはNPO会員の援助により、ミャンマー子宮がんから取り出したがん組織中のパピローマウイルスの遺伝子型を岡山大学アンチエイジング食品科学講座研究室において研究することができました。私の研修期間は2008年2月1日から4月11日まででした。私の研修を担当してくださったのは原野昭雄先生で、NPO会員のお入です。パライニに包埋したミャンマー子宮がん患者組織からDNAを取り出し、そこからRFLP/PCRという方法を使ってウイルス遺伝子型を決定する方法

台風のニュースをお聞きのことと存じます。その時は、私たちは幸いなことに安全な場所におり、家も軽微な被害で済みました。今はネイ・ピ・ドゥに帰って、子宮がん検診の仕事をしていきます。既に100例以上にもなっています。私は結果を分析して、これらのデータを今年中に発表しようと思っております。前回のクリニックの写真がうまく撮れていなかったたこと済みませんでした。クリニックの技師はよく修練を積んでおり確かな腕を

## ヌ・ワー・ミンからの便り

(5月10日)

ヌ・ワー・ミン



▲4月9日(水)ム・ム・シュエさんの送別会とタ・テ・サンさんの歓迎会を同時に行いました。左からムさん、タさん

Dear Okada Sensei,  
I hope u have heard the news of strom. but we r luckily in the safe place. just small damage to my home at that moment. I was with my family. Now, I'm back to Nay Pyi Taw still doing the cervical cancer screening clinic. now, it's almost more than 100 cases. I'm analysing the data of those cases and trying to present the case in this year.  
I'm sorry for all the photos taken in the pap smear clinic were infected and could not be produced, so that I cannot send it to u, but my technicians r well trained and doing very well.  
By the way, the gynaecologists here are asking me the solution III and cotton for the cleaning of the site before taking smear.  
Any way, its ok for me. I'm very glad to do it. thanks alot to u.  
But something I would like to ask u that how long will u supply this to cancer clinic. this is the most frequent question I faced with patients as well as clinicians and the seniors in my department.

with due respect,  
Ngu Wah Min

注：ヌ・ワー・ミン医師は昨年、子宮がん検診の診断研修に来日した病理医。帰国後、ネイ・ピ・ドゥ総合病院内で子宮癌検診クリニックを開設した。

注：ム・ム・シュエ医師は昨年、子宮がん検診の診断研修に来日した病理医。帰国後、ネイ・ピ・ドゥ総合病院内で子宮癌検診クリニックを開設した。

私はこの仕事をするのが嬉しいので、とても感謝しています。ただ一つのことをお尋ねしていいですか。どれだけの期間このクリニックに対する援助をしていただけるのでしょうか。これが他の医師や上司ばかりでなく患者さんからも最もしばしば聞かれる質問です。

尊敬をこめて  
ヌ・ワー・ミン

もつています。

ところで、私の婦人科医が消毒液と綿球を要求しています。細胞を採る前に局所を清拭するためです。細胞を採る前にこれをおこなうと、きれいな細胞が採れないので、そのまま採取するように返事をしました。

岡田助言

## ミャンマー・サイクロン被害へ救いの手を

平成20年5月8日  
日本・ミャンマー医療人育成支援協会  
理事長 岡田 茂

### 募金趣意書

5月2日夜半から3日午後にかけて、ミャンマー（ビルマ）の最大都市ヤンゴンから南西部エーヤワディ河三角洲地帯にかけての地域が未曾有の巨大サイクロンに襲われました。死者は既に2万6千人を超え、行方不明者は4万人以上（5月8日現在）と報道されています。

ミャンマーの医療水準の向上を目指して活動している日本・ミャンマー医療人育成支援協会も現地との連絡を試みているが、インターネットなどが不通状態となっています。これまでの情報では、ヤンゴンの道路は水が溢れ、多くの家では屋根は吹き飛ばされており、市内の街路樹の90%とすべての電柱は倒れているということです。従って、給電、給水は一部を除き途絶えているようです。エーヤワディ河口のボガレイという街（岡山大学で研修したム・ム・シュエの父方の故郷）では95%の建物とバゴダは破壊され、多数の死者がでていると伝えられています。

私たちの協会が貢献できることはやはり医療援助です。それで、皆様からの義捐金を医薬品、医療材料に換え、現地と連絡が取れ次第、最も必要とする品目を送ることで、皆様のお志を活かしたいと思います。


#### ＜募金要項＞

**募金目的** ミャンマーのサイクロン被害への救援活動  
**募金の範囲** 趣旨に賛同される有志  
**募集期間** 平成20年5月～平成20年7月31日  
**払込方法** 郵便振替 口座番号 01390-4-84155  
加入者名 ミャンマー医療人育成NPO  
銀行振込 中国銀行大供支店 普通預金 口座番号 1627943  
日本・ミャンマー医療人育成支援協会 岡田茂  
現金封筒 〒700-0811 岡山市番町2-6-7  
日本・ミャンマー医療人育成支援協会 岡田茂宛  
**お問い合わせ** 〒700-0811 岡山市番町2-6-7  
日本・ミャンマー医療人育成支援協会 岡田茂  
電話 086-224-0102 ファックス 086-222-6333

## 緊急!

### サイクロン災害 救済支援の募金に ご協力ください!

会員の皆様には郵便局の振込用紙を送らせて頂いておりますので、ご協力よろしくお願ひします。また振込用紙を余分に入れておきますので、ご友人、ご親戚の方にもお願ひしていただければ幸いです。



▲5月10日(土)・11日(日)午前10時から2時間岡山駅前にて街頭募金活動をいたしました。



▲皆でディスカッション



▲問診中のヌー・ワー・ミン



▲検診の様子